

上 八 万 中 学 校 総 括 評 価 表 (平成30年度)

		自 己 評 価		学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見		
1 豊かな心の育成	① 自尊感情の育成を図り、生活の中でお互いの人権を尊重する態度を育てる。 ② 自他を大切にし、ともによりよい生き方を求め、行動できるようにする。	<u>評価指標</u> 生活アンケートにおいて ①「自分のことが嫌いな時もあるが好きな時もあり概ね好きである」が70%以上 ②-1 道徳の研究授業を各学年で実施（年3回）するとともに、全体での授業研究会を行う。 ②-2 「毎日の学校生活が楽しい」が85%以上。 <u>活動計画</u> ①生徒の状況に応じた系統的な指導の推進と学校生活での声かけを実施し、信頼関係を深める。 ②-1 道徳の時間の指導力向上のため、研究授業や授業研究会、研修会を実施する。 ②-2 生徒自身が自分の役割を自覚し責任を果たすことをとおして、達成感や満足感を感じることができるような体験活動や実践活動の充実を図る。	<u>評価指標による達成度</u> ① 77.1% 生徒が自ら考え、行動し、達成感を感じられる取組を継続した。目標を達成することができた。 ②-1 道徳の研究授業（各学年1回＝年間3回）と授業研究会を実施した。教科化に向け、講師による研修の充実を図ることができた。 ②-2 結果88.2%目標を達成できた。 <u>活動計画の実施状況</u> ①校内全体で話し合い、系統的な指導や声かけを行うことができた。 ②-1 授業研究会や講師による研修会等、教科化に向けての充実した研修を実施できた。 ②-2 生徒会活動や学校行事等において、生徒自身の達成感や満足感等、道徳性の育成・成長に努めることができた。	総合評定（評定） A （所見） ①生徒によりそい、自尊感情がより高めることができるように、引き続き全教職員で取り組んでいく。 ②校内研修を充実させ、道徳の時間の指導力向上を図ることができた。生徒の道徳性を育てる道徳教育の実践を全ての教育活動で充実させたい。	・小中の連携を密にして、一貫して指導をしてほしい。基本的な生活習慣を身につけさせるために、「早寝・早起き・朝ご飯」については、脳のリズムについて、生徒・保護者に理解が得られるよう啓発を行っていく。生活習慣については、まず保護者が家庭で習慣づけることができるように、学校から協力を依頼する。	・自尊感情が培われるように学校生活全般の中で、個々の生徒の努力や成長を見逃さず褒め、その状況を保護者にも折に触れて伝え、家庭でも褒めてもらうようにし、次へのステップに繋げていく。 ・道徳の教科化に向け、年間計画の見直しや研究授業、校内外研修の一層の充実を図り、子どもたちの豊かな道徳性の育成に努める。
2 たくましく生きる力の育成	① 教師と生徒の温かい人間関係と信頼関係を築くとともに、教職員の共通理解と密接な連携による一貫した指導を行う。 ② 生徒自らが課題に取り組み、ともに考え生きようとする力を育む。	<u>評価指標</u> 生徒アンケートにおいて ①-1「誰かが決まりを守らないとき、先生はきちんと注意している」が90%以上、「先生は親身になって相談に乗ってくれる」が90%以上 ①-2 生徒指導・いじめ問題対策委員会を毎月定期的に開催する。 ②「行事では、みんなが活躍するチャンスがある」が95%以上 <u>活動計画</u> ①-1言葉遣いやあいさつは、時宜をとらえて指導を行う。また、休み時間等も生徒とともに過ごし、生徒理解に努める。 ①-2 生徒指導・いじめ問題対策委員会を通して、情報の共有を密にし、全員で生徒指導にあたり、いじめ等の芽をつむ。 ②生徒会・委員会活動において、行事の計画・運営に主体的に取り組ませる。	<u>評価指標による達成度</u> ①-1「誰かが決まりを守らないとき、先生はきちんと注意している」が87.6%、「先生は親身になって相談に乗ってくれる」が88.9%で、ともに高い水準を維持しているが指標は達成できなかった。 ①-2 毎月定期的に開催できた。 ② 92.1% 指標には達しなかったが9割は達成できた。 <u>活動計画の実施状況</u> ①-1 常に生徒に寄り添った生徒指導を心がけ、些細な言動の変化を見逃さず職員間の連携を図り、生徒理解に努めた。 ①-2 毎月1回委員会を開催し、情報共有と指導に関する共通理解が図れた。 ② 毎回の活動が生徒の自主的な取組で行われた。	総合評定（評定） B （所見） ① きめ細かい生徒観察と定期的な委員会の開催により、共通の現状認識に基づく一貫した生徒指導が行えたが、教職員間の連携をさらに密に図り、教師と生徒のより強固な信頼関係の構築に努める必要がある。 ② 生徒主体で、行事計画から運営まで行われている。	・学校は集団生活を学ぶところであるので、集団生活の中で切磋琢磨して成長できるようにしてほしい。上八万中の先生方は、毎日夜遅くまで、熱心に取り組んでいるが、教員の仕事の量が多すぎる。学校の中で、疑似家族的な指導を行うためには、教員の情熱が必要であるので、生徒への指導に集中できるように、無駄に減らしてほしい。そうすることが、生徒へのよい指導に繋がる。	・教師と生徒のさらに強固な信頼関係の構築に向け、全ての教職員で密な連携を図り課題を共有する。 ・SNSトラブルに対する危機意識を高め、生徒及び保護者への啓発に努める。 ・日常の交通安全指導をさらに強化する。 ・生徒自身の考案により楽しみな行事となるように生徒会で企画・運営を工夫する。
3 確かな学力の育成	① 生徒が理解しやすい授業作りに努める。 ② 家庭と学校の連携により家庭学習の習慣の定着を図る。	<u>評価指標</u> 生徒アンケートにおいて ①-1「授業の内容は理解できる」が80%以上 ①-2「先生は授業の目標を板書したり、プリントなどを工夫し、わかりやすく指導している」が80%以上 ②-1「起床・就寝の時刻を設定し実行できる」が70%以上 ②-2 自主学習ノートの提出率が90%以上	<u>評価指標による達成度</u> ①-1 91.5% 目標を達成できた。 ①-2 88.2% 目標を達成できた。 ②-1 起床の時刻を設定し実行できたのは75.8%であったが、就寝時刻の方は、54.2%であった。 ②-2 90.9% 目標を達成できた。	総合評定（評定） A （所見） ① 87%の教員がICTなどのデジタル教材を活用し、わかりやすい授業の工夫が行われている。	・教員の仕事の負担をできるだけ少なくして、その分を教員の研修にあて、教員のレベルアップと教育の質の向上に向けてほしい。	・確かな学力の育成には基本的な生活習慣の確立が必要であることを、引き続き生徒及び保護者に周知徹底していく。

		<p>活動計画</p> <p>①-1・2 教員相互の授業参観を行い，授業力の向上を図る。 ②PTC等を活用し，基本的な生活習慣や家庭学習での環境作りを推進する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1・2 教員相互の授業参観は十分できなかった。 ②生活習慣や家庭学習について個別に指導するとともに，PTCでも保護者に啓発を行った。</p>	<p>②学力の定着をはかるために，家庭との連携を図ったり，休み時間や放課後を活用し，個別に生徒への指導を行っている。</p>		<p>・学習の理解度についてしっかり把握し，生徒への個別の学習指導の在り方を工夫していく。</p>
<p>4 家庭・地域との連携</p>	<p>① 学校運営の方針や教育活動の状況について，保護者や地域の方々に説明し，理解と協力を得る。 ② 学校・家庭・地域の連携を深める。</p>	<p>評価指標</p> <p>保護者アンケートにおいて， ①「学校の様子がよくわかる」が90%以上 ②「学校・家庭・地域が連携できている」が90%以上</p> <p>活動計画</p> <p>① 学校開放を行い，教育活動の様子を見てもらい，学校ホームページや学校・学年だよりによる情報発信を積極的に行う。 ② 地域の人材を活用したり，地域の行事等に参加・協力したりする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① 79.7% 指標が高かったので達成することはできなかったが約8割は達成できた。 ② 79.7% 指標が高かったので達成することはできなかったが約8割は達成できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①学校ホームページの更新回数等は昨年度より，少なかった。 ②多くの地域の行事等に生徒・教員が積極的に参加し，地域との連携や交流を深めることができた。</p>	<p>総合評定（評定） B（所見） ①教育活動等について，ホームページを活用しての情報発信をより多く行っていく。 ②地域行事に積極的に参加したり，家庭・地域との連携を図ったりして，学校に対する信頼や理解・協力は得られている。</p>	<p>・入学式等の保護者が多数参加する機会を利用して，基本的な生活習慣の重要性やゲーム等のさせ方について，啓発をしてほしい。</p>	<p>・学校行事や教育活動について，学校ホームページ等を使って，広く発信する。 ・学校行事等に保護者や地域の方に参加していただき，その際に啓発活動を行うと同時に生徒の様子をよく見ていただく。</p>

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった